

# 宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター

宮崎県健康増進課

宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第23週の発生動向

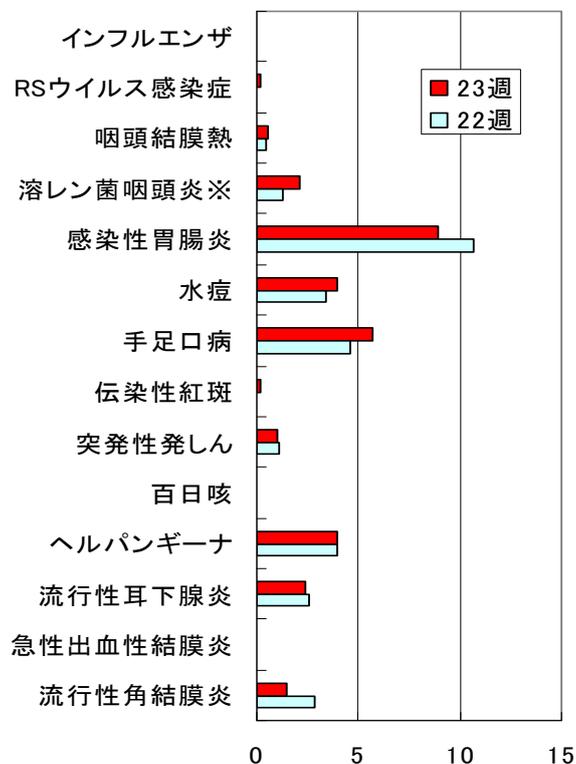
定点医療機関からの報告総数は1,054人(定点あたり30.5)で、前週比98%とほぼ横ばいであった。

前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と手足口病で、減少した主な疾患は感染性胃腸炎であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は76人(2.1)で前週比162%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(3.5)の約6割と少ない。延岡(8.5)保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では3歳から6歳で全体の約6割を占めた。

手足口病の報告数は207人(5.8)で前週比125%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(2.8)の約2倍と多い。日南(26.7)、都城(9.3)保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では1歳から3歳で全体の約7割を占めた。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》  
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

## 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
咽頭結膜熱	3	0.53	日南(3.0)	6ヶ月~4歳で全体の約8割を占めた。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	2.1	延岡(8.5)	3歳~6歳で全体の約6割を占めた。
感染性胃腸炎	20	8.9	日南(20.7)	1歳~3歳で全体の約半数を占めた。
水痘	7	4	延岡(8.0)	1歳~3歳で全体の約7割を占めた。
手足口病	5	5.8	日南(26.7)、都城(9.3)	1歳~3歳で全体の約7割を占めた。
ヘルパンギーナ	6	4	延岡(8.8)	6ヶ月~3歳で全体の約8割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	2.4	日向(14.0)	2歳~7歳で全体の約8割を占めた。

## ■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 5 例が宮崎市 (3 例)、延岡・日南 (各 1 例) 保健所から報告された。  
《宮崎市保健所》・70 歳代の女性で肺結核。咳、痰がみられた。  
・50 歳代の女性で肺結核。咳、痰、発熱がみられた。  
・50 歳代の男性で肺結核。発熱、胸痛、血痰がみられた。  
《延岡保健所》・60 歳代の男性で肺結核。体重減少、栄養失調がみられた。  
《日南保健所》・90 歳代の男性で疑似症患者。咳、呼吸困難がみられた。
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 2 例が宮崎市・延岡 (各 1 例) 保健所から報告された。  
《宮崎市保健所》・50 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は O157 (VT2 産生)。  
《延岡保健所》・10 歳代の男子で腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱がみられた。原因菌の血清型は O157 (VT2 産生)。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : 報告なし。

## ■ 全国第 22 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 18.3 で、前週比 101% とほぼ横ばいであった。今週増加した主な疾患は伝染性紅斑とヘルパンギーナで、減少した主な疾患は水痘であった。

伝染性紅斑の報告数は 1,867 人 (0.62) で、前週比 188% と増加した。例年同時期の約 1.3 倍である。福井県 (1.8)、神奈川県・千葉県 (各 1.5) からの報告が多く、年齢別では 4 歳から 7 歳までが全体の約 6 割を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は 2,930 人 (0.97) で、前週比 131% と増加した。例年同時期の約 1.3 倍である。宮崎県 (3.9)、福岡県 (2.4)、徳島県 (2.2) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 8 割を占めた。

### □ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 345 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 4 例、腸管出血性大腸菌感染症 92 例、
- 4 類感染症 : A 型肝炎 4 例、つつが虫病 9 例、デング熱 1 例、日本紅斑熱 1 例、レジオネラ症 11 例、レプトスピラ症 1 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 12 例、急性脳炎 1 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 例、後天性免疫不全症候群 14 例、ジアルジア症 2 例、梅毒 6 例、破傷風 3 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、風疹 3 例、麻しん 8 例

## ■ A型肝炎の流行について (2)

本週報第 18 週号で全国的なA型肝炎の多発を報告した。その後の推移について中央感染症情報センター（国立感染症研究所）から「注意喚起情報 — 第 4 報」として情報提供があり注意の喚起がなされた。

今年の第 10 週頃から本症は増加し始め第 13 週には 26 例の発生を見た。以降減少傾向にはあるものの依然毎週 10 例程度の発生があり、第 21 週までの累積患者数は 221 である。患者の年齢は 6～88 歳で中央値は 49 歳であり男女性差はない。患者の内、劇症肝炎が 40～60 歳代に 6 例発生し 1 名は死亡している。診断は血清 IgM 抗体検査で殆どが実施されている。全国的な広域アウトブレイクの可能性もあり今後の推移が注目される。本症の疫学的な性状について以下のように掲載されている。

表 1 A型肝炎報告例の臨床像と感染経路（NESID 入力内容による）  
(2010 年第 10 週～第 21 週の診断例 n=190)

年齢（中央値）	6-88歳（49歳）
性別	男性104（55%）、女性86（45%）
感染経路	経口感染161（85%）、その他（不明）31（15%）
経口感染の原因食材	カキ56（35%）、さしみ・貝類21（13%）、 その他・不明など84（52%）
劇症肝炎	5例（3%）〔50代3例、60代2例（うち1例死亡）〕 〔他に第8週に1例（40代）の報告あり〕
無症候	2例（1%）（30代、50代）
診断方法	血清IgM抗体のみ182（96%）、 PCR法によるウイルス検出のみ1（0.5%）、 血清IgM抗体およびPCR法によるウイルス検出（3%）、 その他の方法1（0.5%）

## ■月報告対象疾患の発生動向 <5月>

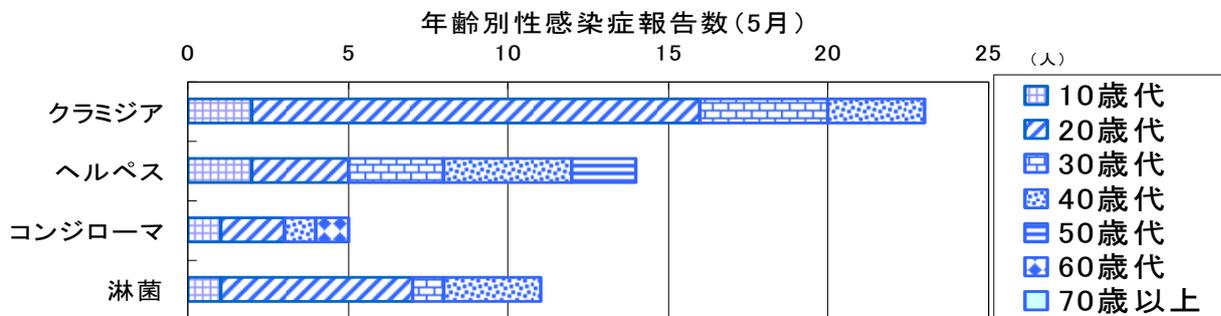
### □性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は53人（4.1）で、前月比121%と増加した。昨年5月（3.4）の約1.2倍と多かった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数23人（1.8）で、前月の約1.2倍、前年とほぼ同数であった。都城（4.5）保健所からの報告が多く、男性12人・女性11人で、20歳代が全体の約6割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数14人（1.1）で、前月の約2.8倍、前年の約1.2倍であった。男性5人・女性9人で、10歳代・50歳代がそれぞれ2人、20歳代・30歳代がそれぞれ3人、40歳代が4人であった。
- 尖圭コンジローマ：報告数5人（0.38）で、前月の約1.7倍、前年の約1.2倍であった。男性2人・女性3人で、10歳代・40歳代・60歳代がそれぞれ1人、20歳代が2人であった。
- 淋菌感染症：報告数11人（0.85）で、前月の約6割、前年の約2.6倍であった。全て男性で、20歳代が全体の約6割、40歳代が全体の約3割を占めた。



【全国】 定点医療機関総数：955

定点医療機関からの報告総数は4,025人（4.2）で、前月比99%であった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,097人（2.2）で前月比98%、性器ヘルペスウイルス感染症683人（0.72）で前月比95%、尖圭コンジローマ442人（0.46）で前月比105%、淋菌感染症803人（0.84）で前月比102%であった。

### □薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は41人（5.9）で前月比124%と増加した。また昨年5月（5.3）の約1.1倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数24人（3.4）で、前月の1.3倍、前年の約9割であった。宮崎市（9.0）、日南（6.0）保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約8割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数16人（2.3）で、前月の約1.1倍、前年の約1.8倍であった。宮崎市（14.0）保健所からの報告が多く、10歳未満が全体の約9割を占めた。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数1人（0.14）。延岡保健所からの報告で、40歳代の女性であった。

【全国】 定点医療機関総数：466

定点医療機関からの報告総数は2,693人（5.8）で、前月比108%と増加した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2,000人（4.3）で前月比101%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症646人（1.4）で前月比135%、薬剤耐性緑膿菌感染症47人（0.1）で前月比167%であった。

## 宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第23週(06月07日～06月13日)

疾病名		第22週	第23週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	3	8		2	5					1	
	定点あたり	0.08	0.22	0.00	0.33	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	15	19	1	7	1	9				1	
	定点あたり	0.42	0.53	0.10	1.17	0.25	3.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	47	76	17	2	34	1	5	9		7	1
	定点あたり	1.31	2.11	1.70	0.33	8.50	0.33	1.67	2.25	0.00	1.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	383	322	75	56	18	62	34	30	10	33	4
	定点あたり	10.64	8.94	7.50	9.33	4.50	20.67	11.33	7.50	10.00	8.25	4.00
水痘	報告数	124	144	47	24	32	12	5	12	1	10	1
	定点あたり	3.44	4.00	4.70	4.00	8.00	4.00	1.67	3.00	1.00	2.50	1.00
手足口病	報告数	165	207	32	56	8	80	8	13		8	2
	定点あたり	4.58	5.75	3.20	9.33	2.00	26.67	2.67	3.25	0.00	2.00	2.00
伝染性紅斑	報告数	1	2		2							
	定点あたり	0.03	0.06	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	41	39	15	7	4	3	2	3		4	1
	定点あたり	1.14	1.08	1.50	1.17	1.00	1.00	0.67	0.75	0.00	1.00	1.00
百日咳	報告数	3										
	定点あたり	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	141	143	27	22	35	6	10	17	1	21	4
	定点あたり	3.92	3.97	2.70	3.67	8.75	2.00	3.33	4.25	1.00	5.25	4.00
流行性耳下腺炎	報告数	93	85	4	3	17		1	4		56	
	定点あたり	2.58	2.36	0.40	0.50	4.25	0.00	0.33	1.00	0.00	14.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	17	9	9								
	定点あたり	2.83	1.50	3.00	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

## ●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～23週)

2類感染症	結核	82例(5)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	14例(2)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
	マラリア	1例	レジオネラ症	1例		
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	6例	急性脳炎	6例
	後天性免疫不全症候群	2例	梅毒	4例	破傷風	3例
	麻しん	1例				

( )内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

**手足口病が増えています。(6月7日～6月13日)**

手足口病の報告が増えています。1歳から3歳の子どもたちが多くかかっており、日南市、都城市周辺で流行が見られます。今年は例年に比べると流行の時期が早く、報告数も多くなっています。

手足口病は手のひらや、足の裏、口の中、お尻などに白っぽい水ぶくれができます。水ぶくれは破れることはなく、しばらくすると乾燥し消えてしまいます。口の中にできた水ぶくれは痛みがあり、食欲がなくなることもありますので、軟らかく薄味で刺激の少ない食事を与えましょう。熱が出ることもありますが、ふつう 1～3 日くらいで治まります。高熱が出たときは、まれに髄膜炎や脳炎などの重い合併症のおそれがありますのですぐに医療機関を受診しましょう。

この病気は、ウイルスによって感染します。原因ウイルスが数種類あるので何度もかかることがあります。ウイルスは主におなか（腸管）の中で増え、便が手について口からもうつります。おむつを交換した後の手にはウイルスがたくさん付いていることがあるので、他のお子さんにうつさないためにも、石けんで手を洗いましょう。